

家庭菜園相談室

家庭菜園 Q & A



Q1

苦土石灰と完熟堆肥は、種まきや植え付けの2週間前に、元肥は1週間前に施用するよう説明がありますが、なぜ同時に施用してはいけないのですか？

A1

時間差をつけて施用するのは、肥料によっては苦土石灰などと同時施用すると成分が損なわれる場合があるのと、これらの資材が土に馴染むまでの時間差があるからです。苦土石灰は水に溶けにくく、有効成分のカルシウムやマグネシウムなどが時間をかけて徐々に溶けながら効果を発揮します。完熟堆肥も、微生物のエサとなり分解されていくため、効果の発揮に時間がかかります。これに対して、元肥の化学肥料は、速やかに水に溶けて土に馴染み、作物に吸収されやすくなるため、植え付けの1週間前くらいが適当です。

なお、未熟な堆肥はアンモニアを多く含み、石灰成分と反応するとアンモニアガスが発生する場合がありますため注意が必要です。施用の際は完熟堆肥を選ぶようにしましょう。

Q2

石灰は作付けをするごとに施用が必要ですか？

A2

家庭菜園では、石灰を毎回施用する必要はありません。通常は、1年に1回程度、苦土石灰を1㎡あたり100g程度施用すればよいでしょう。但し、ハウレンソウのように酸性土壌を特に嫌う作物を栽培する場合には、過去1年以内に施用していても、苦土石灰などを1㎡あたり50～100g程度、栽培前に施用してください。作物にとっては必要な石灰ですが、必要以上に連用すると土壌がアルカリ性に偏ってしまい、作物にさまざまな弊害も出てきます。土壌のpHを測定して、各作物にとって適正な土壌pHで栽培することが必要です。なお、土壌pHの測定を希望される場合は、JAにしみの各支店・営農経済センターまでご相談ください。



Q3

スジ（繊維）っぽいサツマイモができてしまいました。原因は何ですか？

A3

繊維の多いサツマイモの特徴は、「サツマイモの表面やひげ根のくぼみの凸凹が深いもの」「ひげ根自体が多いもの」「細くて小さいもの」などがあります。

サツマイモは肥料をほとんど与えなくても栽培できるので、昔から「地力があって肥料気のない土で作れ」と言われています。肥料の中には塩化カリなど塩素を含むものがあるので、与えすぎると繊維が多いサツマイモに育ってしまう可能性があります。完熟堆肥で土作りを行い、肥料は控えめにすることがサツマイモ栽培のポイントです。

また、猛暑はサツマイモの品質に影響します。自然はコントロールできませんが、猛暑が続く中での栽培は、形が不ぞろいになったり、スジ（繊維）が多いサツマイモになったりする場合があります。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC（タック）までご連絡ください。